

定例活動〔第2回雑木林塾〕／8月26日(土) 「相生山の地形・地質・水系を知る」

伊藤 晶子

8月の定例活動は、昨年好評だった村松先生を迎えての講義。会員を含めて参加者は20名の盛況でした。

午前中は山根コミセンで座学です。地球46億年の地質の歴史を1時間半で学習しタイムマシンに乗った気分になりました。

相生山の白っぽい石ころは約100～80万年前に古木曾川、古矢田川その他の河川が網状に流れ、氾濫を繰り返して土砂を堆積し作られた八事層のチャ

ートだそうです。チャートは水成岩で堅いが表面が風化されやすく白くなるのが特徴です。

午後はフィールドワークで、集いの広場に集まりました。講義前に服部さんが白っぽいチャートを割ってみると、中はきれいな赤茶色で歓声を上げました。みんなもつられて次々に割ると、中は様々な色と模様で見とれました。ベンチに並べて展示会です。

その後、道路工事中の現場に特別に



▲道路工事現場で相生山の地質を観察する参加者たち

入れてもらい、切り崩した道路側面を観察。チャートの混ざった相生山の内部の地質を実際に見ました。

相生山が別の顔を見せた1日でした。

定例活動〔第3回雑木林塾〕／9月23日(土) 「雑木林の植生とその管理を学ぶ」

大館 学

9月の定例活動は三重大学名誉教授の武田明正さんを講師に招き、長年林学分野で研究を続けてきた先生の森林に対する考えを学びました。

基本は、「やりながら(観察しながら、反応を見ながら)順応的に管理をしていく。」という、とてもわかりやすい教えて、名誉教授というよりご近所の好々爺と行った感じで、和やかな雰囲気での講座でした。

その中の一部を紹介すると、植生は乾・湿、明・暗といった環境傾度によ

り異なり、雑木林の管理においても現場をよく見て環境にあった管理が必要であるとか、様々な遷移を踏まえて育林を考える上でのギャップ更新のやりかたなど、科学的に見る目を持った作業を今後の活動に生かしていけると思いました。

午後は、ツツジの園、アカマツ林、コナラのギャップ箇所などを回り、これまでの作業箇所について助言をいただきました。ここところ雨が多かったです。そこそこできのこが顔を出



▲武田先生(右から2人目)を囲み、植生管理術を学ぶ参加者たち

してあり、ツクツクボウシの鳴く中最後は緑陰講座の感じでいろいろな質問が生徒から出て、時間オーバーの第3回講座でした。武田先生ありがとうございました。

シリーズ『森の住人たち』⑮ ～ナガサキアゲハ(長崎揚羽)～ ただいま北上中

アゲハチョウ科

開長 12cm内外 環境 本州関東以南



親子連れが捕獲したナガサキアゲハ(相生山緑地にて)

大きな捕虫網を手にした男性とすれ違った。何を探しているのか、気になって尋ねる。

「ナガサキアゲハっていうチョウ、知ってるかなあ。この森に来ていると聞いたんでね」

10年前のことである。

ナガサキアゲハは、もともと九州地方以南の冬でも比較的暖かい地方に生息する南方系のチョウである。しかし、それが本州に上陸し近畿地方までに到達していることは知識としてあった。しかし、相生山緑地にも飛来していることは、そのとき初めて知った。ナガサキアゲハの食樹がミカン類であることを思い出す。ミカン畑が点在する相生山緑地は好適地といえる。

かつての昆虫少年がそのまま大人になったであろうことが容易に想像できるその男性は、ナガサキアゲハがさらに北上していくであろうことをひとしきり話すと、また周囲を見回しながら歩いていった。

あれから10年、相生山緑地ではナガサキアゲハをごく普通に観察できる。すでに関東地方でも定着していることが確認されたという。

「地球温暖化」が、生きものたちの生息域を広げている。私たち人間にとっても生活上、大きな問題である。さて、私たちになにができるのだろうか。私たちは、何をしなければならないだろう。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)